

No.267

1985年7月 第1号発行

2007 September 平成19年 9月



波紋

PUBUSHER: 森松株式会社
EDITOR: 小坂美香

永年会主催アジ・イカ釣り

日時	天候	場所
7月28日 土曜日	曇り	福井県 敦賀港沖 釣り船 遊幸丸

今年も永年会行事アジ・イカ釣りに総勢12名の参加があり忙しい中参加ありがとうございます。今回、アジ・イカとのめぐり合わせが悪くて、まったく釣れませんでした。

しかも、釣りを始めると海に「うねり」があり半分以上の人が酔っ払い状態。数年ぶりに拷問地獄に遭いたいへん辛い釣りになってしまいました。

松井宣和 (製造部)

『販売管理システム 更新中です』

社長 森 直樹

現在、半年以上をかけてソフトメーカーとの打ち合わせを進めてきた販売管理システムが導入直前です。パソコンもそれに合わせて新しくなります。しばらくは新旧システムを同時に稼働させるため、机の上は販売管理システム用が二台、ネット用で一台と三台のパソコンが並んでいる様子はかなりの手狭です。今回の更新では、これまで問題となっていた現システムの動作速度の向上や、検索方法などの使い勝手が向上するので、導入後にはより業務の効率化が出来るかと楽しみにしております。これらの電子システム導入以前は、手書きでの台帳記入、伝票発行と事務作業が大変な量であったわけですが、販売管理システム導入以後はそれらが半分の人員で済むようになりました。

このように我々にとってパソコンは、仕事だけでなく生活においても一日たりとも手放すことが出来ない物になっております。反面携帯電話の普及と共に電話番号を記憶することが無くなったように、人間の記憶するという能力は、パソコンが普及すると共に弱まっているのではないのでしょうか。

記憶とは読み上げて声に出したり、手を使って書くことにより強化されるものです。電子化によりそれらの動作が少なくなれば、「自然と覚える」ことは無いでしょう。これも環境の変化の一つであると思います。そしてどんな情報でも手に入るようになり、人間の頭は記憶する、計算する、といったことから、連想したり、組み合わせたりする、という創造的な事に使われることで価値を生むようになると思います。私たちの仕事も、機械でできる、他社でできるという仕事は自然と離れていき、自社でしか出来ないものが残っていくのも当然のことでしょう。

私たち、森松にしか出来ない仕事を追求し、実行することが変化に適応し、生き残る企業の条件です。

naoki@morimatsu.net

25日 (火)	24日 (月)	23日 (日)	22日 (土)	17日 (月)	15日 (土)	14日 (金)	8日 (土)	4日 (火)	3日 (月)	1日 (土)	2007年 9月
経営会議 15時30分~16時	生産会議 12時~13時	振替休日	秋分の日	敬老の日	第三土曜日休み	安井浩二さん誕生日	志水満さん誕生日	第64回東京インターナショナルギフト・ショー【東京ビックサイト】(4日~7日まで)	2007上海国際電気防止技術展示会【上海光大展示センター】(3日~5日まで)	第一土曜日休み	の予定

パートさんコーナー 「入社して」

早いもので、入社して16年と数ヶ月が経ちます。気が付けばデスクマット生産部門に携わる事もほぼ同年数になります。年々作業内容の流れも改善されミス・クレームが生じれば、その都度要工場生産部門全員(私たちパートさんも含めて)にて話し合い、何が悪いのか、何が問題かを話し合い、間違えた人を一方的に責めるのではなく、ピンチをチャンスに変える機会を与えてくれた!これを機に改善と社員の方が言ってくれるので、私たちもそれに答えるように日々改善内容に取り組んでいます。

福重貞子 (製造部)

気が付けば入社した当時の作業場のレイアウトが今では別物と言えるほど広く使い易くなりました。デスクマット生産部門の作業を通して振り返って見ると、時には辞めたいと思った事も何度かありましたが、頑張っているのも良き先輩方々に恵まれたおかげです。これからも皆さんにご迷惑を掛けないようにもう少し頑張っていきたいと思っております。

『中国の雑談』

李 慧 (東京オフィス)

今年のゴールデンウィークを利用して、初めて主人の地元(西安)に行ってきました。皆様、中国の西安はご存知ですが、多分、知っている人は多いと思います。西安は古代、長安と呼ばれ、中国大陸六つの古都の中でもっとも有名です。秦王朝を倒した漢は、巨大な帝国の為に、咸陽城(かんようじょう)の南に新しい都城を造り、それが西安の始まりだそうです。以降、隋唐など多くの王朝がこの地に都を定めました。唐の時代に「末永く天下を安寧ならしめる」の意を込めて長安と名が改められました。そして、何千年という長い年月を経て、中国の歴史の各発展段階を裏付ける膨大な文物や遺跡を保存している為、西安(長安)は中華文化の発祥地と呼ばれるようになりました。(注:西安という名になったのは近代になってからの事です。)

今回、主人の案内で、国宝級の貴重な文化財の古代遺跡兵馬俑(へいばよう)を見ることが出来ました。兵士や馬車の配列はすべて古代軍事分都でした。兵馬俑坑博物館はまるで中国最大の古代軍事博物館のような存在です。思ったよりずっと素晴らしく、迫力に感動しました。テラコッタによる等身大の兵馬俑は、秦の時代(前206~前221)の始皇帝の陵墓に納める為に造られた8,000体以上の人馬像の一部分で、多くは鮮やかに彩色されていました。1974年、秦の始皇帝陵から1.5キロのところ、地元農民が井戸掘りの作業中、偶然発見されました。現在、発掘作業は難航しているようです。何故なら、長い年月を経て、多くの兵馬俑が倒れたりして破片化しています。また、発掘された兵馬俑は、鮮やかに彩色されていた破片が空気と接触し、色が無くなるのです。中国では現在、発掘された兵馬俑の破片は色を失わない為の保管技術が十分ではない為、発掘作業は中止している訳です。でも、きっと何時かは我々の前に、何千年前の鮮やかな兵馬俑が現れるに違いないと思います。(笑)

皆様、今回、西安の観光スポットの一つを紹介できませんでした。もし、時間があれば是非、行って見て下さい。西安はお勧めですよ。また、西安の続編も計画しています。お楽しみに!!

最後は問題です。中国の六つの古都はどこでしょう?
回答は今月号に載せてありますよ、探して下さいね...

読後感想文

「残業はするな、前業をせよ」

久恒啓一 著

大橋康成 (配送部)

自由への近道は、前業にある。残業は、だらだらしてしまうので効率が悪い。疲れているし腹も減っている。残業をしなければ仕事が終わらないという人も多い。上司が帰らないから帰れない人も多い。必ず帰るんだという決意を持って、帰ってしまうことが重要だ。終っていないでも帰る。残った仕事をいつやるかとういと、始業前にやればいい。他の人が来る前に終らせようと必死になるので、良いものが出来る。残業だと2~3時間かけてだらだらとやってしまうような仕事でも前業だと始業時間という締め切りがあるために集中力が高まり早く終わるようになる。朝は夜に比べて頭もよく回るの、短い時間でも密度が濃い仕事出来る。

「博士の愛した数式」

小川洋子 著

伊藤雅典 (製造部)

登場人物は、博士と呼ばれる数学者、家政婦と10歳になる彼女の息子。博士は、交通事故が原因で記憶が80分しか持続しなくなってしまったのだが、数学を愛する気持ちは常に心にあり、その美しさを他者へ伝えよとする物語です。もし私もこのような人から、数学を教わっていたら、数字に弱い私自身の人生も変わっていたかもしれません。家政婦の仕事は、派遣される先々でいろいろ家庭があるため、それぞれに就業規則があったりします。

そんな中、たまたま博士が熱を出してしまった時、就業規則を破り泊まり込んで看病をしてしまい、担当を変えられてしまうところがあります。彼女の仕事に対する責任感というか、こだわりの為このようなことになってしまったのです。後に、彼女はまた博士のところへ行けるようになりましたが、自分自身も仕事に対する考え方・取り組み方を考えさせられました。

『適切な距離』

堀江辰造 (東京オフィス)



東京で特にそう思うようになりました。知らない人に触れられたり、近寄られたりするのは不快だということです。どこに行ってもヒトヒトだからでしょう。自分の順番を待つために行列に我慢しなければなりません。中には急いでいるのか、前の人をぐいぐいと押している人がいます。自分では全く気付いていないよう。知らない人に対するときは、行きずりの人であつても一定の間隔を保つことが必要。自分と他人との進む方向は平行線ではない。必ずどこかでぶつかります。その時どうするか、3つあるのかなと思います。「お先に」と言っ自分か先にいくのか、「どうぞ」と言っ相手譲るのか、「では一緒に」と言っ少し狭くなった道をともに行くか。これは人間関係にもあてはまると思います。人間関係を友好に保つためにはその時々適切な距離が必要でしょう。特別な関係は除いて。職場では毎日慣れ切っているの、人との距離に神経を遣っていない。自分は適切な距離を保って人々と付き合っているかを、ときどき人ごみを歩きながらチチクする必要があるかなと思います。



堀江辰造・伊藤雅典・小川洋子・大橋康成・久恒啓一

『売上げが上がらなくて悩んでいる 新人営業マンの君に送る』

牧野光昌 (企画営業部)



「営業は自分を売り込め！」と200年前に誰かが言っていたそうだが、今は基本は変わらないよ。でも自分の何を売り込めば良いと思う？「商品知識」「話術」「雑学」「カラオケ」：優先順位で考えたら、どれもベスト10には入らないなあ。

1番は「頼まれたらすぐやる」。例えば「〇〇」という理由で出来ません。」とか「納期は希望より3日遅れます。」とかマイナスの回答でも、質問されたらすぐ調べて、すぐ返事すれば、とりあえずはOKということである。(でもマイナス回答は10回に1回くらいにしたいね。「君に聞けばすぐ返事が来る。まず聞いて、もしダメなら他をあたろう。」と思ってくれたらOKである。たとえ良い回答でも1週間もたつてしまつたら、「なめとらんか!」となる。

2番目は「約束を守る」。たまには納期遅れもあるかもしれないが、必死に約束を守るという意識が常に強ければ、仕入先に再三の確認と念押しをすることになり、遅れることも少なくなる。それをしなければ仕入先も、しつこく念を押した販売先を優先するよね。「あいつは商品知識はないが仕事は早いし約束は守るから、注文してやるかなあ。」と思われたいら「よしよし」だなあ。

3番目は「嘘をつかない」。本当はこれが一番かも知れない。たとえ納期が遅れて約束が守れない事態になつても「嘘」はダメ。100回の仕事をうまく終えても、1回の嘘で君の信用はゼロどころかマイナスになる。もし約束を守れなかったら、本当のことを話して心からお詫びして、ひたすら謝る。怒られても謝る、いつかは許してもらえらるから。でも嘘をついたら最後。嘘つきに仕事を頼む人は居ないよな。

さあ、この3つをすぐ実行してみよう。基本的なことだから誰でも出来る。その気さえあればね。きつと、1年後は忙し過ぎるから自然と商品知識もたくさん覚えていて、時間の使い方も自ずと上手になつて、社内でも有数の営業マンになつてるよ。きつとね。

『奥深い、意味のある 暗黙のメッセージ』

伊東郁二 (特販部)



高校2年生の長女「里奈」は、中学入学と共にバレーボール部に入部。1年生からレギュラーとして試合に出場し、3年間をやり遂げた。何より褒めてやりたいのは、3年間の「皆勤賞」である。

高校に入学しても「バレーボール部」に所属した。監督コーチが超有名で、遠征・遠征の厳しいクラブである。昨今の高校生には非常に厳しい部活であり、化粧は勿論、服装・髪型・髪の色：とすべて「バレーボール部だけ」は「法度」である。1人でもルールを守らないと全体責任で休部になるとの事である。そんな中で、またしても1年生からレギュラーとして活躍してきた。朝は6時過ぎの電車で朝練に、夜は部活動の練習をして帰宅は21時30分。土曜日・日曜日も、ほとんど練習か試合であるが、未だ皆勤賞継続中。当然父親に似たのは？間違いないが、この根性には「驚き」と「喜び」が交差している。指導者・周囲の人達に、本当に親として感謝している。

そんな娘に、この夏の「県大会の予選」で事件が起きた。帰宅しても話もせず元気が無い。と心配した妻から出張中に電話があつた。とことん落ち込みいつもとまったく違う姿であるらしい。電話して話を聞くと、「2試合合続けて試合に出してもらえない」との事であった。試合に出られるのが当たり前であつたことから、試合に出られる「有難み」を忘れていたのだと思う。鼻が長く伸びていたのでは？更なる「ショック」の追い討ちは、代わりに出場できなかったか？自問自答する様にして電話を切つた。

それから数日後、県大会出場は破れ3年生は卒業し「新チーム」が発足した。バレーボール部の伝統で、監督・コーチ3年生が、新チームの「キャプテン」を選出するらしい。自信を失い、落ち込んでいた里奈は、「満場一致」で「キャプテン」が決まった。大事な試合で1年生に負け、試合に出られなかった娘が「満場一致でキャプテン」。奥が深い「指導者の暗黙のメッセージ」についていろいろと考えさせられた。当事者である里奈は、「奥深い暗黙のメッセージ」をどの様に受け止めたのであろうか？もう少し時間をおいて、里奈の考えを聞いてみたいと思う。親馬鹿ではあるがチーム内に気働きし、周囲にも気を利かせ、指示をして。少し大人になつた様に思える。更なる飛躍を期待して頑張つてほしいと思う。

『緑のカーテン』

大和田夕美 (企画営業部)



5月の終わりに、会社の近くのホームセンターに行きました。いろんな苗が入り口に置いてあり、その中で、なぜかゴーヤ(にがうり)に興味を持って、これなら簡単に育てることが出来るかな？と思つて買つてしまいました。

会社に持ち帰り、育てることの出来る場所に植えてもらいました。日々成長していく、ゴーヤを観察していると、心が和らぎます。朝7:15に出社し、一番にゴーヤの成長を確認しています。いろんな方にゴーヤの面倒を見て頂いて、ネット(網)でつるを緑のカーテンのようにしてもらつたり、虫が周りにいれば駆除してもらつたり、いろんな方のお陰で花も咲いて、実がなりました。ゴーヤのお陰で、皆さんとの会話の数も増えて、とても楽しかったです。来年は、もういろいろなと勉強し、育てたいと思つきました。

「緑のカーテン」中部電力のホームページでエコライフの豆知識で紹介されてました。緑のカーテンで20~30%の省エネ効果があるそうです。つる性植物を利用した緑のカーテンは、熱線といわれる赤外線を反射し、葉の気孔からは水分を蒸散しているため、日差しをやわらげてくれるだけではなく、室温の上昇もおさえつけてくれるそうです。

とても簡単に育つので、初心者の私でも楽しかったです。

